

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立富士特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	371人				

1. 使用状況

寄贈物品名	軸傾斜丸のこ盤
使用学年及び人数	高等部1～3年生機械加工班 生徒12人
使用頻度	高等部作業学習では、週3日、教材作成・準備では週5日
使用状況	<p>高等部の作業学習(自主生産作業)の授業で製作している製品の部材作りに使用している。椅子(座面・脚・背もたれ)やトレーなどの製作に於いて、生徒が規格の重要性を理解し、より精度の高い木材の切断を行えるようになった。トレーの製作では、部材の斜め切断のやり方も覚えるなど切断の精度を高めることにより、製品の質が向上し、製品を手にする人々に喜んでもらいたいという生徒の願いが実現できた。</p> <p>教員による教材作成では、日常生活の指導や生活単元学習及び自立活動等で使用する教材教具作りに活用している。</p>
物品の使用による変化や効果 ※ 1年目との違いを含めご記入ください。	<p>切断作業の安全性が確保されたため、角度を付けた切断の操作も生徒に任せることができ、数種類の切断作業を作業工程に取り入れることができた。トレーの縁枠の切断が正確になったため、組み立ての完成度が上がったことを実感し、自信を持って作業に取り組む姿が見られた。製品の生産量と質の向上により作業意欲を高めることができた。卒業後の社会参加への意欲の高まりが期待できる。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>作業学習での生徒の使用は、昨年までは決められた長さでの切断作業に限定していたが、製品の規格に応じてガイドの調整をして、斜め切断作業ができるようになった。それにより、更に製品の質の向上や量産を意識した作業学習への取り組みが期待できる。</p>
その他 希望や所感など	<p>教材作りなどで使用する教員向けの丸のこ盤の操作講習会を年度初めに行っているが、実際に教材を作制するための講習会を後期にも設定したことで、多くの教員が安全な操作について学ぶ機会となった。今後も前期と後期に一回ずつ設定して安全への意識を更に高めるようにしたい。</p>

2. 活用の様子



【角度を合わせて、トレーの部材を斜めに切断】 【トレー1に対して4枚の部材・8ヶ所の切断】

〈生徒の感想〉

安全の確認をしてから、取り組んでいます。
部材の斜め切断が正確にできるようになったのでトレーの
完成度が上がりました。
これからも良い製品づくりを頑張っていきます。